

早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点編

## 古文書・古典籍の翻刻と符号化に関するガイドライン

歌舞伎資料を事例に

2024年8月2日版

## 目次

0. 概要.....	2
1. 符号選択に関するガイドライン.....	2
1.1 使用文字について.....	2
1.2 注意すべき字形.....	3
1.3 文字譜の凡例.....	4
2. 作業手順.....	5
2.1 丸本の場合.....	5
本文の翻刻.....	5
ルビ・捨て仮名の翻刻.....	6
文字譜の翻刻.....	6
2.2 番付の場合.....	6
文字の翻刻.....	7
紋の翻刻.....	7
3. 番付の符号化順序に関するガイドライン.....	7
3.1 顔見世番付の符号化順序.....	7
3.2 役割番付の符号化順序.....	10
「役者名とその紋」の部分.....	10
「演目名とその紹介」の部分.....	10
「演目内の場立紹介と配役紹介」の部分.....	11
3.3 紋の入力情報.....	13
4. くずし字ビューアに関する説明.....	14
浄瑠璃丸本.....	14
顔見世番付・役割番付について.....	15
字形データセット.....	15
その他.....	15
執筆担当.....	15

## 0. 概要

このガイドラインは、早稲田大学演劇博物館の演劇映像学連携研究拠点が、文部科学省の機能強化支援事業（平成 28～平成 30 年度）の補助金を得て行った「くずし字 OCR」を活用した総合的古典籍データベースの構築」事業でのデータ作成方針をまとめ、データベースの拡充に際して令和 6 年度に改訂を行ったものである。

古典籍資料をデジタルデータとして翻刻するときにはしばしば問題になることが、少なくとも 2 点存在する。ひとつは、資料内の文字を置き換える符号の選択にかんする問題である。手書きや手彫りの文章ならば、使用する文字のかたちに制限はないが、デジタルデータにするためには、使用する符号（文字セット）を現実的に使用可能な符号の範囲に限定する必要がある。翻刻を紙媒体で出版するときのように「原本どおりの字形」を入力するという方針を採用することはできず、差異をふくむ複数の文字をひとつの符合のもとに包摂する必要が生じるのである。このガイドラインでは、Unicode の範囲内で原本どおりとすることを原則とした。

もうひとつは、符号化の順序に関する問題である。多くの日本の古典籍においては、文章は右から左へと記されており、符号化も同じ順序で進められる。しかし、番付資料のように版組みや情報の配列順序に独特の慣習があるものの場合、正しい情報の順序を定めることは専門家でなければ困難である。そこで、データ入力においても一定の方針が必要となる。データ構造を簡便なかたちで保持するため、このガイドラインでは、本来の慣習は捨象することとし、画像の右上から左下へとデータ入力を進める方針を採用した。

なお、この事業での対象資料は、演劇博物館が豊かなコレクションをもつ浄瑠璃丸本と歌舞伎番付（顔見世番付、役割番付）とした。

## 1. 符号選択に関するガイドライン

演劇映像学連携研究拠点では、古典籍資料のデジタル翻刻にあたって以下の方針にもとづいて翻刻時に使用する符合の選択を行った。

### 1.1 使用文字について

- ・ 翻刻は一字一字、原本に忠実にいき、基本的には漢字・仮名遣いの変更は行わない（例外については 5-6 頁参照）。
- ・ 変体仮名は現代の仮名に置き換える。
- ・ 繰り返し記号の取り扱い

#### ①くの字点

- ・ 「く」（ユニコード: U+3031）
- ・ 「ぐ」（ユニコード: U+3032）

※原資料の一文字に対し、一文字分のデータを対応させるため、「／＼」は使用しない。

#### ②一の字点

- ・ひらがなのくり返しを示す場合は「ゝ」(ユニコード: U+309D)、濁点がついている場合は「ゞ」(ユニコード: U+309E)を使用する。
- ・カタカナのくり返しを示す場合は「ヽ」(ユニコード: U+30FD)、濁点がついている場合は「ヾ」(ユニコード: U+30FE)を使用する。

### ③二の字点

丸本では、二の字点(ゝ)は漢字のくり返しを示す場合のみに使用されている。そのため、翻刻の際は、現在漢字のくり返し記号として使用されている「々」に置き換える。

- ・合字(合略仮名)は、「㍊」「㍋」のみ使用する。
- ・「さ」に「°」のような文字があった場合は「さ」で代用し、「さ+°」、結合文字を使う。
- ・庵点は「ゝ」を入れる。

## 1.2 注意すべき字形

漢字の翻刻の場合、異体字やくずし字の種類が多く、一意的に判断が難しい場合がある。このプロジェクトの翻刻では、翻刻文字を資料に合わせることを基本方針としたうえで、「崩す意図」を捉えられる特徴をもつものには「崩した漢字」を、そうした特徴の見られないものは「崩していない漢字」を使用した(名前の現代の慣用に鑑み、「郎」のみ、「良」に崩されている場合も「郎」を入力した)。以下に「崩す意図」の有無についての参考例を示す。

### 例1)「恠」と「松」

図1-1の場合、木扁は明らかに「公」の上にあるため、現在使用されている「松」ではなく「恠」を使用する。図1-2の場合、木扁の位置も現在の常用漢字と同じく左側であるため、翻刻でも「松」を使用する。

図1-1<sup>1</sup>

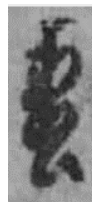
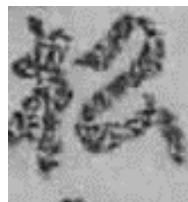


図1-2<sup>2</sup>



### 例2) 寿と壽

図2-1の場合、3画目の右端が折れ曲がっていたり、「寸」以外にも「エ」や「口」等の文字が見えたりすることから、崩さずに書く意図が見受けられるため、翻刻でも「壽」を用いる。これに対し、図2-2の場合、3画目の右端が折れ曲がっていなかったり、「寸」以外の文字が見えなかったりすることから、崩して書く意図が感じられるため、翻刻でも「壽」を使用する。

図2-1<sup>3</sup>



図2-2<sup>4</sup>



<sup>1</sup> [http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/yakuwari/ro24-00001-317/ro24-00001-317\\_003.html#ID\\_0046](http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/yakuwari/ro24-00001-317/ro24-00001-317_003.html#ID_0046)

<sup>2</sup> [http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/yakuwari/ro24-00001-0183/ro24-00001-0183\\_002.html#ID\\_0038](http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/yakuwari/ro24-00001-0183/ro24-00001-0183_002.html#ID_0038)

<sup>3</sup> [http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/yakuwari/ro24-00001-0345/ro24-00001-0345\\_004.html#tab01](http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/yakuwari/ro24-00001-0345/ro24-00001-0345_004.html#tab01)

<sup>4</sup> [http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/yakuwari/ro24-00001-0349/ro24-00001-0349\\_005.html#tab01](http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/yakuwari/ro24-00001-0349/ro24-00001-0349_005.html#tab01)

ただし、なかには崩す意図があるのか否か分かりづらいものがある。図3の場合、「鼠」にも「兎」にも見える。しかし、文字の上方を見ると「鼠」ほどは細かく書き込まれておらず、幾らか崩して書こうとしている意図が感じられるため、翻刻では「兎」を使う。

また、一つのくずし字に対して二つの翻刻がある例もある。その場合、以下の例に記したような間違いが起きやすいので、注意すべきである。(例4)

図3<sup>5</sup>

例4) 櫻、桜



これは「櫻」<sup>6</sup>だが、初期段階では「桜」として入力していた。



これは「桜」<sup>7</sup>だが、出版されている翻刻は「櫻」になっている。

崩す意志があるか否か分かりづらい文字については、一字ずつ検討を行った。以下に、判断が特に難しい漢字とその翻刻方針を示した。原本の漢字が新字体か旧字体かはっきりしない場合は以下のとおりどちらかに揃えている。

- ・ 「ㇿ」→合字の方が字として判断できるため、そのまま「ㇿ」を用いる
- ・ 「斗」と「計」→「言」（ごんべん）がある場合は「計」、なければ「斗」を用いる
- ・ 「齋」と「齊」→「齊」を用いる
- ・ 「濟」と「済」→「済」を用いる
- ・ 「儘」と「俔」→「俔」を用いる
- ・ 「体」と「躰」→「躰」を用いる
- ・ 「爾」と「尔」→「尔」を用いる
- ・ 「扨」と「擇」→「擇」を用いる
- ・ 「伝」と「傳」→字形を見て判断する（「田」や「寸」の部分が崩れている場合は略字「伝」を用いる）
- ・ 「広」と「廣」→「廣」を用いる
- ・ 「言」と「云」→「云」を用いる
- ・ 「余」と「餘」→「餘」を用いる
- ・ 「辺」と「傍」→字形を見て判断する
- ・ 「売」と「賣」→「賣」を用いる
- ・ 「芸」と「藝」→「藝」を用いる

<sup>5</sup> [http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/yakuwari/ro24-00007-0016B/ro24-00007-0016B\\_004.html#ID\\_0133](http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/yakuwari/ro24-00007-0016B/ro24-00007-0016B_004.html#ID_0133)

<sup>6</sup> [http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/yakuwari/ro24-00001-0752/ro24-00001-0752\\_005.html#ID\\_0116](http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/yakuwari/ro24-00001-0752/ro24-00001-0752_005.html#ID_0116)

<sup>7</sup> [http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/yakuwari/ro24-00001-0288/ro24-00001-0288\\_005.html#ID\\_0149](http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/yakuwari/ro24-00001-0288/ro24-00001-0288_005.html#ID_0149)

- 「聲」と「声」→「声」を用いる
- 「館」と「館」→「館」を用いる
- 「さま」の合字→「様」を用いる

### 1.3 文字譜の凡例

- 浄瑠璃正本の本文右横に記される、音高や節回しを示す「文字譜」データを、翻刻・採取した。
  - 文字譜の採取にあたっては、山根爲雄編『「近松全集」文字譜索引』（和泉書院、一九九五年）を参照しつつも、続けて記譜された文字譜を、分割できる最小単位に区切った。
- 例) 〈地色ハル〉→〈地色〉+〈ハル〉    〈地中ウ〉→〈地〉〈中〉〈ウ〉
- 文字譜が付された浄瑠璃本文については、一文節（ひとつの自立語+付属語）を単位として、文字譜と関連付けた。
  - 文節の区切りに関しては、文意を明確にするため、「切り掛る」「縫り付く」等の一般的な複合動詞は、ひとつの動詞と見なした。ただし、敬語表現の「給ふ」等の補助動詞は、一自立語として扱った。
  - 本文の一文節の右横に付された複数の最小単位文字譜は、原則として原本での記載順に、それぞれを同一文節に紐付けた。

例) 神<sup>地ウサハリ</sup>ならず仏<sup>ハル</sup>ならねば<sup>ハル</sup>それぞ共。

→ 「神ならず」に〈地〉+〈ウ〉+〈サハリ〉、「それぞ共」に〈ハル〉

## 2. 作業手順

演劇映像学連携研究拠点では、データ入力 of 作業 (非専門家) と専門的知識にもとづいて正否を吟味する校正者 (専門家) の分担によって翻刻データの作成を進めた。以下、演劇映像学連携研究拠点の事業で対象とした浄瑠璃丸本と歌舞伎番付 (顔見世番付、役割番付) それぞれについての作業手順を記す。

### 2.1 丸本の場合

この事業において、「丸本」(義太夫節の一作品が丸ごと入った本) の翻刻は以下の手順をとった。当拠点の「くずし字判読支援事業」では、非専門家に作業の中心的役割を担ってもらうため、翻刻対象については既出版物等で翻刻のあるものを選択した。まず、「本文」のデータ作成を行い、その上で「ルビ・捨て仮名」、「文字譜」の翻刻データの入力を行った。

#### 本文の翻刻

1. まず作業者が丸本本文を翻刻した。すでに翻刻テキスト<sup>8</sup>が出ている丸本を選定し、担当者がその翻刻を参照しながら作業することで、必ずしもくずし字に熟達していない者が作業を進めることができる。単語が2行に分かれているとき(「義経」の「義」は前行の一番下に、「経」は次行の一番上に来

<sup>8</sup> 本ガイドラインでは、『日本古典文学大系』など出版されている翻刻を「翻刻テキスト」と呼ぶ。

てしまった場合など)は、次行の頭にきた文字に「行またぎ」と記入する<sup>9</sup>。

1. で入力した文字が、対象資料の文字と一致しているかを、専門家(くずし字を読むことが出来る人)が確認・校正する。
3. 作業者が、専門家による指摘を反映して正しい文字を入力する(このプロセスの中で、作業者は自らの読めなかった部分の正解にいたることができる)。

## ルビ・捨て仮名の翻刻

1. 作業者は、翻刻テキストを参照しながら、ルビや捨て仮名を入力する。ルビは、単語単位で入力する。「あん徳とく帝てい」と入力する場合、「あん」「とく」「てい」と入力するのではなく、「安徳帝」に対して「あんとかてい」と記入する。
2. 入力されたデータやプリントアウトを校正者に送付し、丸本のルビ・捨て仮名と入力されたルビ・捨て仮名が一致しているか確認する<sup>10</sup>。
3. 翻刻担当者は、専門家による指摘を反映しながら正しいルビ・捨て仮名を入力する。

## 文字譜の翻刻

1. 浄瑠璃の専門家が、使用する文字譜の要素、一つの文字譜がかかる範囲を決める(後述)。翻刻方針によって、使用する文字譜の要素が異なることがある<sup>11</sup>。
2. 入力作業者は、使用文字譜の一覧表を参照しながら、出版された翻刻を使用し、文字譜がかかる文節を手書きで囲う。
3. 専門家は、2の校正を行う。
4. 入力作業者は、3での校正結果をふまえて、文字譜のデータ入力を行う。

## 2.2 番付の場合

番付類も丸本の場合と同様に、非専門家がデータ入力作業を進めるが、翻刻が出ているものが少ない。そのため、非専門家が入力したデータを、専門家が確認し、間違えている文字や判読できなかった文字を修正するという手順で進めた。なお、役者の紋が掲載された番付については、紋画像もデータ化を行っ

---

<sup>9</sup> 2018年時点では一行ごとにデータがまとまっているため、ひとつの単語の間で行送りがある場合に行をまたいで単語をデータ化することができなかった。将来この問題が改善されるときに備え、コメント欄に「行またぎ」と記入した。

<sup>10</sup> この作業のなかでは時に、漢字の読みを示唆するための「捨て仮名」なのか、本文中の文字なのかについての判断が必要になる。こうした校正を行うためにも、校正者は、くずし字を読めるだけでなく、丸本や浄瑠璃の専門的知識を有することが求められる。

<sup>11</sup> 丸本では文字と文字の間に文字譜が示されることがある。その場合、その文字譜がかかっているのは上の文字なのか下の文字なのかを決められないこともある。さらに、その文字譜が二文字以上の場合、文字の位置によっては複数の文字譜が記されているのか、複数字で一つの文字譜が記されているのか、判断できないことがある。将来研究が進んでこれらのことが解決できた際に、その研究結果を反映できるようにするため、今回のプロジェクトでは以下のようにした。ただし、「いがみの権太」のように、固有名詞は一つ以上の文節からなる場合も一つの語としてみなした。①文字譜の要素は最小限のものを使用。②文字譜の種類に関係なく、一つの文字譜がかかるのは一文節とした。「ウ」のように一般的には一字に対してのみかかる文字譜も、本プロジェクトでは一文節にかかるものと判断した。

た。その過程についても記す。

## 文字の翻刻

1. 作業者が番付の文字情報を翻刻する。判読できない文字は文字枠を設定する作業のみ行い、下駄記号「=」を入力する。くずし字は字と字が続けて書かれている場合もあり、作業者がくずし字に熟達していない場合、どこまでが一文字なのかを判断しにくく切り出すことすら難しいことがある。そのような場合も、作業者の予想でかまわないので、文字を切り出しておく。
2. 1で入力した文字が原資料の文字と一致しているか、また切り出した文字が原資料の文字数と一致しているかを、専門家（くずし字を読むことが出来る人）が確認・校正する。専門家にも判読不可能な文字は、下駄記号のままにする。
3. 作業者が、専門家による指摘を反映して正しい文字を入力する（このプロセスの中で、作業者は自らの読めなかった部分の正解にいたることができる）。
4. 1～3の過程の中で、「萩」と「萩」などのくずし字だとどちらなのか判別しにくい文字が出てきた場合、コメントとして①どちらなのか判別できない由②今回はどちらの文字を採用するのか、またそれはどのような判断によったのかを記す。

## 紋の翻刻

1. 作業者が、文字を切り出すのと同じ方法で、紋に文字枠を設定し、一律で「紋」という文字の翻刻のように扱う。
2. 1で切り出した紋のコメント欄に、その紋のすぐ下に書かれている役者名を入力する。清元節や常盤津節の社中の人々の名前の中には、その音曲の紋が一つだけ記されていることもあるが、この場合は音曲名を入力する。

※ P.12 参照

## 3. 番付の符号化順序に関するガイドライン

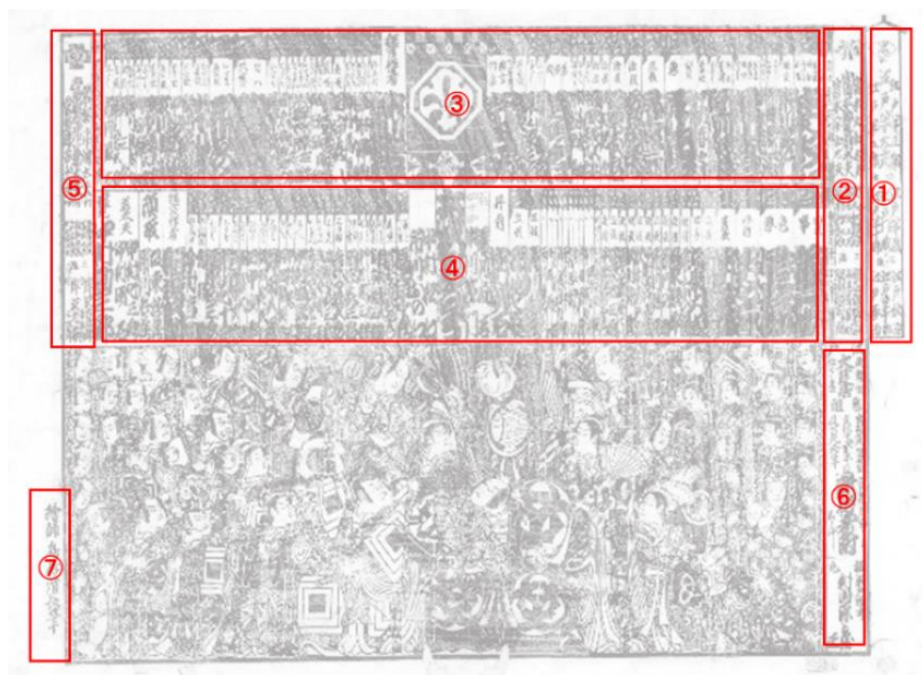
古典籍資料の符号化に際しては、資料ごとに版組みが複雑であるため、資料に併せて翻刻の符号化順序を設定する必要がある。ここでは版組みの単純な丸本を除き、顔見世番付、役割番付のそれぞれについて説明をする。なお、役者名については適宜、国立劇場調査記録課編『歌舞伎俳優名跡便覧』を参照したほか、朱筆書入は翻刻対象から除外した。

### 3.1 顔見世番付の符号化順序

顔見世番付とは、江戸の芝居小屋でその1年の間に出演する役者名・役者の出身地・役者の役柄・音曲家名・狂言作者名などを載せた資料である。



図 1<sup>12</sup> [顔見世番付]文化 10 年 11 月中村座 | ro22-00001-051



#### ①の翻刻(図 1-1)

- ・ 段ごとに右から左へ翻刻していく。また、段は上から下へ移動する。
- ・ 紋が一番上にあるので、最初に翻刻する。紋の部分にはその浄瑠璃の名前を入れる。

例) 同じブロック内の人名は河東節連中の名前 → 紋の翻刻は「河東」

#### ②の翻刻 (図 1-2)

- ・ 段ごとに右から左へ翻刻していく。段は上から下へ移動する。
- ・ 紋の枠への記入の仕方は①と同様。

#### ③の翻刻 (図 1-3)

- ・ 役者の名前のブロックごとに上から下へ(役者の出身地【1】→役柄【2】→役者名【3】)の順に翻刻する。役者の名前のブロックは右から左へ移動する。
- ・ 地名の下に複数の役柄が書かれている場合は、右から左へ翻刻する。
- ・ 紋の所には座元の名前を記入する。紋は上から下への順で翻刻する。

例)「角切り銀杏」→「舞鶴」の順に翻刻

#### ④の翻刻

- ・ 翻刻の順序は③と同様。

#### ⑤の翻刻

- ・ 翻刻の順序、紋の箇所への記入情報は①、②と同様。

#### ⑥の翻刻

- ・ 翻刻の順番は、右から左へ。上段から下段へ移動。

例)「江戸」→「大歌舞伎」→「大芝居」→「狂言書」→「元祖」→「寛永元甲子年始」……の順

#### ⑦の翻刻

<sup>12</sup> <http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/kaomise/ro22-00001-051/ro22-00001-051.html>

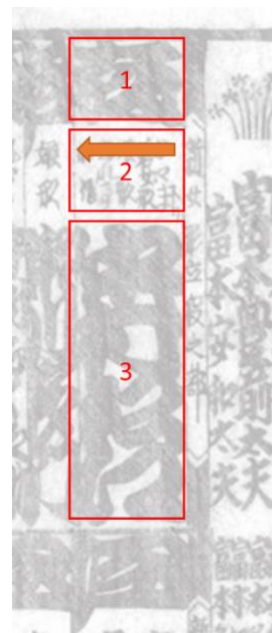
図 1-1 ブロック①



図 1-2 ブロック②



図 1-3 ブロック③



## 3.2 役割番付の符号化順序

役割番付とは、その芝居の出演者とその紋、演目名と配役などが載せられた資料である。情報の掲載内容や順序は資料によって異なるが、当拠点の「くずし字判読支援事業」で翻刻した資料の場合、多くは1) 役者名とその紋、2) 演目名とその紹介、3) 演目内の場立紹介と配役紹介が記された部分によって構成されている。ただし、1) のなかにも、役者名と紋の記載なしに芝居小屋の座元の紋のみが掲載されている資料もあり、3) では、3-1) 配役が場立紹介ごとに記される場合と、3-2) 各場立すべての紹介の後で記される場合など、いくつかの種類が存在する。

図 1<sup>13</sup> 役割番付 ro24-00007-0001BD

### 「役者名とその紋」の部分

- 座元は中央に記されるなど一定の慣習があるが、翻刻のデータ化は、図 1 のように頁の右上から左下へと進める。
- 各枠内は紋と役者名がセットになっている。各セットは上から下へ翻刻する。
  - 枠 1: 「紋」(コメント欄: 尾上松緑) → 「スケ」 → 「尾上松緑」
  - 枠 2 以後: 「紋」 → 苗字 (右) → 名前 (左)。
- 枠の並びを一行分翻刻し終わったら、緑の矢印で示したように隣の並びに移動する。
- 枠 4 (「岩井梅蔵」) の下部のように枠が二つ (枠 5、9) 並んでいる場合は、枠 5 → 6 → 7 → 8 → 9 …… のように原則として上下の列を優先する。

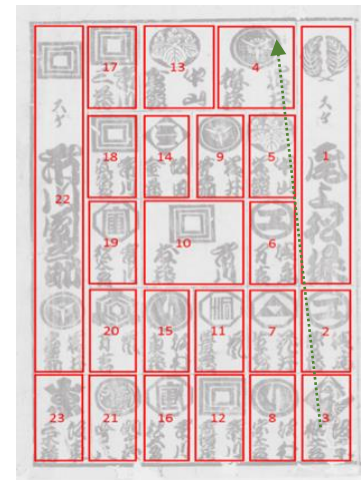
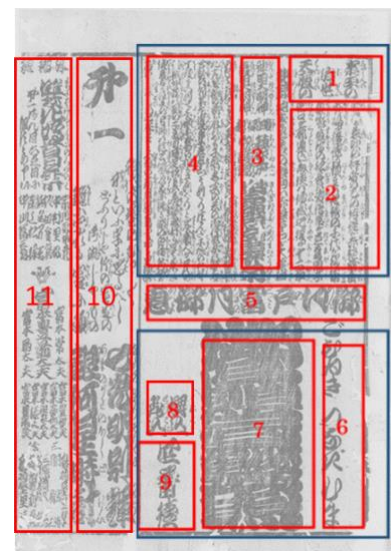


図 2<sup>14</sup> 役割番付 ro24-00007-0001BD

### 「演目名とその紹介」の部分

図 2 は演目名を記すページである。1~5、8、9 のブロックに内容を象徴的に記した演目紹介、6~7 のブロックに外題が書かれている。このページも右上から左下へ図 2 のようにブロック単位で記入する。

- 図 2 枠 1~9 は、5 をはさんで、1~4、6~9 の上下のブロックに分けられる。
- 枠 1~4 は右から左への移動を守りつつ、1 と 2 のように上下で書かれている内容が分割されている場合は上下で分ける。
- 枠 3 のように、枠内に段があるときは、上から下の順に翻刻する。各段の中は、右から左の順に翻刻する。



<sup>13</sup> [http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/yakuwari/ro24-00007-0001BD/ro24-00007-0001BD\\_002.html#tab01](http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/yakuwari/ro24-00007-0001BD/ro24-00007-0001BD_002.html#tab01)

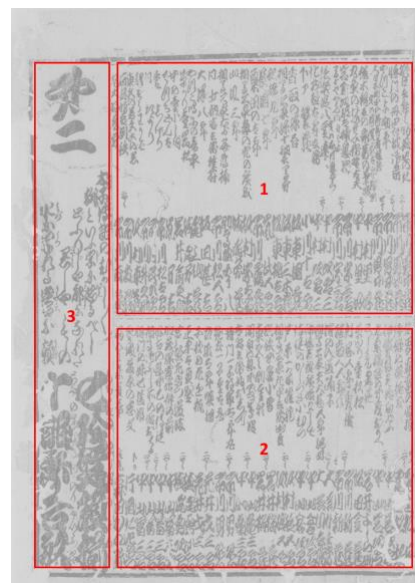
<sup>14</sup> [http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/yakuwari/ro24-00007-0001BD/ro24-00007-0001BD\\_002.html#tab01](http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/yakuwari/ro24-00007-0001BD/ro24-00007-0001BD_002.html#tab01)

## 「演目内の場立紹介と配役紹介」の部分

図 3<sup>15</sup> 役割番付 ro24-00007-0001BD

### 1、配役が場立紹介ごとに記される場合

- ブロック 1・2 では配役が、ブロック 3 では場立の紹介が書かれている。
- 図 3 に示したように、ブロックごとにかけて翻刻する。各ブロックは、1～3 の順に翻刻する。
- 各ブロック内の行は、以下のように上から下へ翻刻する。
- 各配役の頭に記されている「一つ書き」は、並ぶと横線のように見え、見えにくいので注意。
- ルビは基本的に入力しない。



#### 図 3 枠 1、2 の内部

- 図 3 の枠 1・2 は「一」の段ごと、役名の段ごとには翻刻せず、「一」→「瀧口兵庫之助渡辺の仕」→「市川男女蔵」というように縦のまとまり毎に翻刻する（図 3-1）。

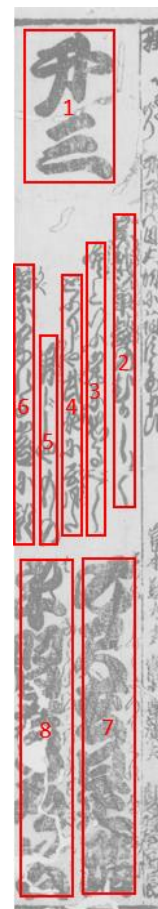
#### 図 3 枠 3 の内部

- 図 3 枠 3 も上から下へ翻刻する。
- 図 3-2 枠 2～6 のように、複数行にまたがるまとまりについては、文章の行を右から左へ翻刻してから下の文字群へ移る。

図 3-1



図 3-2



<sup>15</sup> [http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/yakuwari/ro24-00007-0001BD/ro24-00007-0001BD\\_003.html#tab01](http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/yakuwari/ro24-00007-0001BD/ro24-00007-0001BD_003.html#tab01)



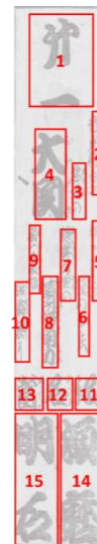
## 2、配役が各場立全ての紹介の後で記される場合

- 1～4の各ブロックで、各場立の紹介がなされている。
- 1～4の右から左への順で翻刻する。
- 各ブロックの中は、図4-1のように上から下へ、右から左への流れを保ったまま翻刻する。
- 配役の部分は図3-1と同様に翻刻する。

図 416 役割番付  
ro24-00007-0016B\_003



図 4-1  
(図 4 ブロック 1  
拡大図)



### 参考例)

- 図 5 のように段組みが複雑な場合は、内容上のまとまりごとに翻刻する。
- ブロック 3 はブロック 1・2 とブロック 4・5 を区切っている。ブロック 1 の次はブロック 2 と上から下への順を優先する。

図 517 役割番付 ro24-00007-0001BD



<sup>16</sup> [http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/yakuwari/ro24-00007-0016B/ro24-00007-0016B\\_003.html#tab01](http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/yakuwari/ro24-00007-0016B/ro24-00007-0016B_003.html#tab01)

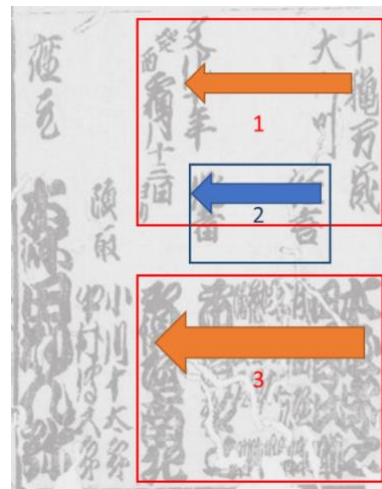
<sup>17</sup> [http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/yakuwari/ro24-00007-0001BD/ro24-00007-0001BD\\_004.html#tab01](http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/yakuwari/ro24-00007-0001BD/ro24-00007-0001BD_004.html#tab01)

図 5-1 図 5 のブロック 5 拡大図

- 図 5-1 枠 1→2→3 の順、つまり上から下へ翻刻する。
- 枠 2 は、1 内の文字と入り組んでいてどこで分けるか分かりづらいが、「狂言作者」で一つの単語なので、中段としてまとめる。
- 各枠の中は右から左へ翻刻する。

図 5-1

図 5 のブロック 5 拡大図



### 3.3 紋の入力情報

- 紋のデータ化においては、その他の文字情報として、紋の画像はすべて「紋」と翻刻した。(p.6 参照)
- 具体的な情報は、当該の紋とともに記載されている役者名を、「メモ」欄に記入した(「三つ葉葵」など、紋の名称は作業とデータ内容を単純化するため記入しなかった)。
- 清元節など音曲の流派の紋は、個人名(延壽太夫など)の紋として扱わず、流派の紋として扱った(図 1)。その際、「メモ」欄には音曲名を記載した。
- 絵柄に組み込まれた紋(図 2)、版元印(図 3)は、紋の翻刻対象としなかった。
- 図 4 のように、紋に対応する役者名がなく、紋の名前が記載されている場合は、「メモ」欄には紋の名前のみ記した。

図 1<sup>18</sup> ro22-00001-051 の部分拡大  
(枠内左から富本節、半太夫節、常磐津節の紋)



<sup>18</sup> <http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/kaomise/ro22-00001-051/ro22-00001-051.html>

図 2<sup>19</sup> ro24-00001-0757\_002  
(枠内市村座の紋)

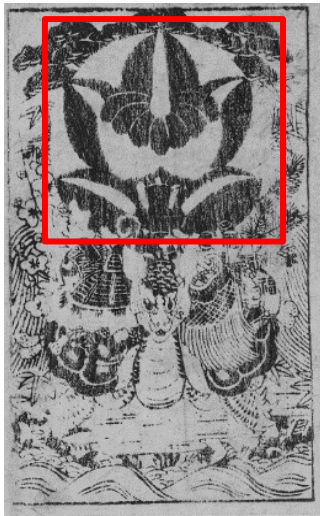
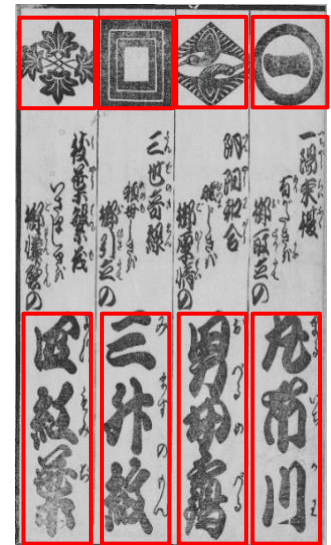


図 3<sup>20</sup> ro24-00001-0572\_005  
(枠内版元印)



図 4<sup>21</sup>ro24-00001-0234\_004



## 4. くずし字ビューアに関する説明

本ビューアは、浄瑠璃丸本および番付の翻刻テキストを、原本画像と同時に閲覧することを目的として開発したものである。

### 浄瑠璃丸本

- ・ 翻刻テキストの種類としては、本文、ルビ(読み仮名)、捨て仮名、文字譜を対象とする。
- ・ ビューアは下記4つのタブにより構成される。

#### 1、翻刻文字表示

- ・ 本文のみを表示する。
  - ・ テキストの色は透明とし、原本画像の位置に1文字ごとに配置する。
  - ・ 文字にマウスカursorを乗せると、文字矩形を水色・文字色を白で表示する。
  - ・ 1文字ごとに字形データセットへのリンクを設置する。
  - ・ 上記リンクから、字形データセットとして同種の文字一覧を別ウィンドウで表示する。
- ※ 文字は選択できない。

#### 2、翻刻逐次表示

- ・ 本文のみを表示する。
  - ・ テキストの色は透明とし、原本画像の位置に1文字ごとに配置する。
  - ・ 文字にマウスカursorを乗せると、文字矩形を水色・文字色を白で表示する。
- ※ 文字は選択可能。

<sup>19</sup> [http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/yakuwari/ro24-00001-0757/ro24-00001-0757\\_002.html#tab01](http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/yakuwari/ro24-00001-0757/ro24-00001-0757_002.html#tab01)

<sup>20</sup> [http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/yakuwari/ro24-00001-0752/ro24-00001-0752\\_005.html#tab01](http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/yakuwari/ro24-00001-0752/ro24-00001-0752_005.html#tab01)

<sup>21</sup> [http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/yakuwari/ro24-00001-0234/ro24-00001-0234\\_004.html#tab01](http://www.waseda.jp/prj-kyodo-enpaku/kuzushiji/viewer/yakuwari/ro24-00001-0234/ro24-00001-0234_004.html#tab01)

### 3、翻刻全文表示

- ・ 本文、ルビ（読み仮名）、捨て仮名を原本画像と重ねて表示する。
- ・ テキストは1行を1単位としたため、1文字ずつの位置は原本画像とは一致しない。
- ・ 捨て仮名は本文と区別するため、小さな級数で表示する。

### 4、文字譜表示

- ・ 文字譜情報のみを表示する。
- ・ 文字譜の付された文字の右横に、黄色い丸を表示する。
- ・ 文字譜の付された文字にマウスカーソルを乗せると、黄色い丸の下に文字譜を表示する。
- ・ 1つの文字に対し複数の文字譜が付されている場合は、「/」で区切って併記した。（例：地／ハル）

## 顔見世番付・役割番付について

- ・ 翻刻テキストは本文のみを対象とする。
- ・ ビューアは下記2つのタブにより構成される。

### 1、翻刻文字表示

- ・ テキストの色は透明とする。
- ・ 人名、および1文節の単位でテキストを配置する。
- ・ マウスカーソルを乗せると、該当文字の色を白・該当範囲を水色の矩形で表示する。
- ・ 人名、および1文節の単位で字形データセットへのリンクを設置する。
- ・ 上記リンクから、同種の文字一覧を別ウィンドウで表示する。

### 2、翻刻全文表示

- ・ 本文を原本画像と重ねて表示する。
- ・ テキストは人名、および1文節を1単位とし、範囲内で均等配列で表示する。

## 字形データセット

- ・ 字形データセットは、丸本は1冊単位、番付は顔見世番付、役割番付それぞれで一つのデータセットとした。
- ・ メニューの並びは、丸本はユニコード順、番付は出現頻度順とした。
- ・ 字形画像の一覧表示は出現順とした。
- ・ 字形画像をクリックすると、原本画像ページの該当箇所を、緑色の矩形で表示する。

## その他

- ・ 本ビューアは凸版印刷株式会社のくずし字ビューア「ふみのは」をベースに開発した。
- ・ 推奨ブラウザは Google Chrome とする。
- ・ Internet Explorer は 9 以上のバージョンに対応している。

## 執筆担当

- ・ 監修 児玉竜一
- ・ 第1～3節 柴田康太郎、高橋和日子、第1節3項 田草川みずき
- ・ 第4節 福井尚子

このガイドラインは文部科学省「特色ある共同研究拠点の整備推進事業 機能強化支援」による事業成果の一部である。

(2019.3.12 版)